

阪井久良伎 くわらぎ 川柳作家。明治二年一月、千四百武藏國生れ、昭和二十年四月、二月歿（八六—一九五）。本名坂井辨 わかち、幼名和歌次郎。別號くちまふし、へなづち、へなづちの翁、へな翁、久良岐、九段老人、仰天笑童、伎、口網諸持、坂井我勝、富士見の里人、川柳久良岐、川柳居士人久良岐、徒然坊、我勝、摺雲山人、棕樹庵主、棕樹庵主人、爰春渡仙、玉音庵、瑞靈、瑞靈神園主人、病久良伎、石城、窮靈齋、素多の家主人、藤涼入道久良岐、諸持、錦粧軒、阪井和歌知、阪井我勝、阪井久良岐等。明治十一年上京、渡邊重石丸の道生館に學ぶ。うち高等師範學校中退後、新聞『日本』、『報知新聞』記者など。二十九年柳誌『五月鯉』創刊主宰。

著書『へなづち集』（明治二十四年十二月十二日新聲社）、『文壇笑魔經』（久良岐—坂井辨名、明治二十五年五月十九日文集社）、『現代百人豪・第四編』（合著、明治二十五年八月二十日新聲社編刊）、『明治崎人傳』（棕樹庵主人—坂井辨名、明治二十六年五月二十八日内外出版協會）、『川柳梗概』（阪井久良岐名、明治二十六年九月二十一日金港堂書籍株式會社『文藝叢書』）、滑稽『文壇川柳久良岐點』（久良岐—坂井辨名、明治二十七年十一月二十一日金色堂）、『續雜司谷若葉集』（合著、兎木南南編著、昭和十五年九月二十日聖西輪讀會）、『むかしの奇譚』（阪井久良岐名、合著、中山吞海油出—谿編、昭和十九年新春跋・明治き徳公會）、『明治藝文公壇』（注城秀雄編、平成五年一月十七日千葉・醒睡庵）、「久良伎の明治回顧談」(収載)等。

文獻『阪井久良伎翁の碑』（昭和四十二年四月十日阪井久良伎翁建碑委員会編刊）等。